

平成18年度中学入試第2回解説

—

説明文の出典は松井孝典「宇宙人としての生き方」(岩波新書、2003)です。この文章は環境・人口・食糧問題などの現代の深刻な課題を、地球システム全体の課題としてとらえ、人類を宇宙の知的な生命体の一つ「宇宙人」と位置づけて、これから何に目を向けていくべきかを論じている文章です。特に今回問題文として取り上げた箇所は「宇宙人」としての我々の視点について論じている重要な箇所になります。

問1

この問題は宇宙から地球を見る以前の、従来の我々の視点とはどのようなものであったかを問う問題です。48行目に「地球を構成するそれぞれ個別の物質圏を語るのが、地球を語ることの従来の認識のしかた」と書かれています。この部分を指定字数でまとめます。なお記述問題は8割以上書くことが必要となります。

問2

「天体として地球を認識する」とは宇宙から地球を見ることができるようになった時代の新しい視点として、具体的に我々を地球をどのようにとらえているのかが問われている問題です。ポイントとして、45行目に「では再び最初に戻って」という言葉があります。19行目から「月の鉱物から地球の歴史をひもとく」という話題になっていた本文が再び「新しい視点」に話題を戻し、詳しい説明を行っているのがこの箇所からになります。まとめる箇所はこの段落の中から「個別に物質圏を見るのではなく」、「有機的につながった全体」、「地球を一つのシステムとして認識する」という部分をまとめます。

問3

月と地球の歴史をつなぐ話は19行目から44行目にかけて述べられています。その中で、3つのポイントをまとめます。1つ目は「月と地球の関係について」。2つ目は「月の記録」について。具体的には月の古い岩石を調べることを示しています。3つ目は2つのポイントによって「地球のことが想像できるようになった」ことについてです。このポイントを指定字数でまとめると正解を導くことができます。

問4

この部分では宇宙と人類を相対的にとらえた時、人類は宇宙に対してどのように位置づけられるかを示しています。それを具体的に説明しているのは前の段落の56行目に述べられています。「システムの中に組み込まれた存在として我々が認識される」という部分を指定字数で切り取れば正解になります。

問5

接続詞などの穴を埋める問題です。空欄の前後の部分を読み、その関係をしっかりと把握すれば答えが導き出されるはずで

問6

脱文を元の位置に戻す問題ですが、解答するにはまず脱文からキーワードを見つけることが重要です。まず「地球システム」という言葉に着目します。これについて話題が語られているのは45行目以降になります。そして『人間圏』を『画像』として見る」とありますが、60行目に画像の話題が出ているため「エ」が最も適切な箇所ということになります。

問7

漢字も10点分ありますので、重要な基礎事項ということになります。

問8

筆者の主張と合うものを選ぶ問題となります。

「イ」は月と地球の比較で人間圏をさらに拡大することができるという部分が誤りです。「ウ」は大気・海洋・人間圏などを個々に細かく見つめるという部分がシステムとしてとらえるという筆者の主張とくい違っています。

「エ」は宇宙への進出をより盛んにしていくという部分が、本文には書かれていません。現代の特徴をとらえるために、宇宙と相対化して我々の存在を見つめ直すという「ア」が正解になります。

二

物語文の出典は高田桂子「海辺のモザイク」(てらいんく、2001)です。北の海辺に引っ越してきた松崎一家が卓を中心として、地元の老人やその孫との交流の中で次第に心を開いていく作品です。出題した箇所は不登校となった卓が図書室を整理する仕事を通して学校に通っていく過程を描いている場面と、一番仲良くしていた老人の死に直面する場面となります。

問1

この設問は「じっちゃん」の見舞いについて母に正論を言われ、今すぐ行くことをあきらめ放課後にしなければならなくなった卓の心情を答える問題です。

「ア」は母の言葉により行動を思いとどまっているので「母の言葉も耳に入らないでいる」の部分が誤りです。

「ウ」は「『スゴスゴスゴ……』とつぶやきながら」と書かれているにも関わらず、「納得し、決意を新たにしている」というのは誤りです。

「エ」は「八つ当たり」の行動が本文中には描かれていません。

「イ」の「『言い返せない』が『未練は残っている』」が、つぶやきながら登校した卓の心理をよく表現しています。

問2

この設問は図書室の整理を最後まで一人で行いたがっていた卓の心理変化がどのようにおこったのかを読み取る問題です。1つ目のポイントは、卓は図書室を自分ひとりの力で整理しようと意気込んでいたこと。2つ目は、しかしここまでやれたのは自分ひとりの力ではないことに気がついたという点です。以上の2点をまとめれば正解となります。

問3

傍線部直後の69行目から75行目までの母の心理状況をとらえる問題です。

「ア」は「どこから手をつけてよいかわからない」の部分が母の台詞と一致しません。

「イ」は「達成感に満たされている状況」が誤りです。

「エ」は「誰かに助けを求めている」とありますが、その様子は描かれていません。

「ウ」はじっちゃんに対して自分ができることの限界を感じている母の心理が表現されているのでこれが正解となります。

問4

直後の卓の「ちがうよ、リュウだって」という発言、101行目から107行目までの母の台詞から、「ウ」の竜一家ということがわかります。

問5

例年通りの語句の問題です。

語句の問題も説明文の漢字の問題同様、取りこぼしのないように注意が必要です。

問6

詩のコンクールの審査員の評価を不満に思っている竜一の心理を答える問題です。137行目から148行目までをまとめます。「親が手伝ったと疑われた」という要素が必要不可欠となります。

問 7

170 行目から 172 行目の竜一の台詞から「じっちゃん」の心理をとらえれば、「エ」の「いちばんうれしそうだった」を選ぶことができます。

問 8

卓の人物説明として最もふさわしいものを選ぶ問題です。

「ア」は「じっちゃん」「母」の支えをしている描写は本文中にはなく、勇敢さは読み取ることはできません。

「イ」は図書室の整理などひとりで物事を進めている部分もあるので、誤りです。

「ウ」は自分の感情をあらわにする場面もあるので、「閉じこもってしまう」が誤りです。思いやりを持って「じっちゃん」や「竜一」に接することが書かれた「エ」が正解です。

本校では、2月5日に第3回の入試が予定されております。本日同様、説明文、物語文の大問2題の構成です。説明文では、文章の構成をしっかりと把握した上で筆者の意見を的確につかむこと、物語文では登場人物の心理を出来事に即しながら掴んでいくことが重要です。記述問題は今回同様8割以上書く必要があります。

以上で解説を終わります。